

# 教育委員会だより

## 夷王山まつり協賛事業 天の川と戦国時代の山城を訪ねるみちウォーキング行

6月19日、新日本歩く道紀行に選定された道をたどる「天の川と戦国時代の山城を訪ねるみちウォーキング」を夷王山まつり協賛事業として初めて開催し、町内外から31人が参加しました。

コースは旧JR上ノ国駅から勝山館跡を経由して道の駅「上ノ国もんじゅ」までの約5.5キロで、晴天



参加者による勝山館跡での記念撮影

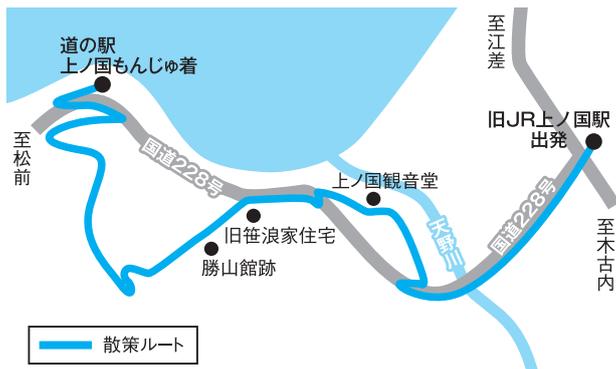


夷王山散策路はゆっくりとした足取りで



旧笹浪家住宅で一休み

に恵まれたこの日、参加者は上ノ国観音堂や上ノ国八幡宮など町の歴史を物語る文化財を見学しながら歩みをすすめました。休憩地点となった旧笹浪家住宅では、こうれんを添えたバナライアイスが振る舞われ、参加者は伝統菓子の新しい食べ方に感心しきりでした。ゴールの上ノ国もんじゅには3時間ほどで到着し、参加者は充実した笑顔に包まれていました。函館市から参加した。

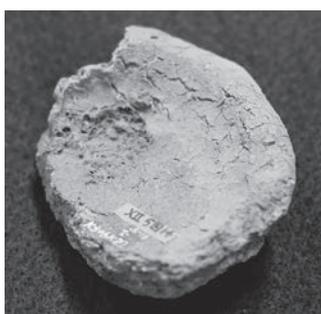


た佐藤さんは、「見どころが多いこのコースはとても魅力的に感じました。次回もぜひとも参加したいです」と語っていました。

## 勝山館跡出土品の資料調査が行われる

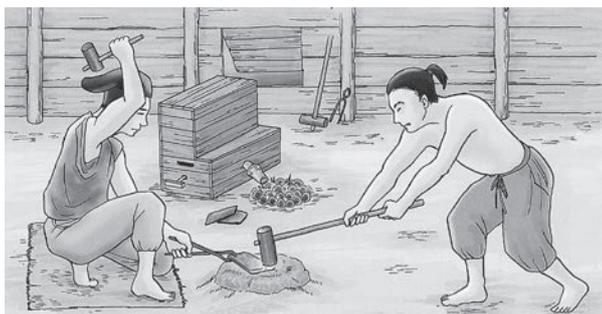


顕微鏡を使い出土品を調査する沓名さん



鍛冶作業に使われた「るつぼ」

6月8〜10日に茨城県つくば市にある国立科学博物館の沓名貴彦研究員が、勝山館跡の鍛冶作業工程の解明を目的とした資料調査として、上ノ国館調査整備センターを訪れました。沓名さんは、「るつぼ」



鍛冶作業の様子

と呼ばれる溶けた金属を入れる土器の付着物を顕微鏡で実見し、どのような金属を溶かしていたかを調査しました。調査した「るつぼ」の中には、金の粒と思われるものが確認され、館で金を溶かす作業をしていたことが考えられました。沓名さんは、「全国的にも勝山館跡は、鍛冶作業関連の遺物が多いので、今後も継続的に調査を行いたい」と話していました。

